



最初にお読みください

# AT-MCF2000 リリースノート


この度は、AT-MCF2000 をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 3.0.3

## 2 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 3.0.3 には、以下の制限事項があります。

### 2.1 電源ユニットの動作情報

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「システム」

動作中の AT-MCF2000 に、電源スイッチがオフの状態の電源ユニットを装着すると、電源ユニットの装着を示すログが記録されますが、DIAGNOSTICS SHOW CHASSIS コマンドなどの表示上は電源ユニットが認識されません。

電源ユニットの電源スイッチをオンにすることで、コマンドで認識されるようになります。

### 2.2 コンフィグレーション

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「コンフィグレーション」

- アクティブマスターコンフィグを削除した後、CONFIG RUN コマンドを実行すると、コンソールの反応が 15 秒程度停止します。  
なお、ラインカードの動作および反応回復後のコンソールの動作には問題はありません。
- ラインカードの各ポートにリンクモード（ミッシングリンクなど）を設定しても、ラインカードを再起動すると、5～7 チャンネル以降のリンクモードの設定が消えることがあります。  
ラインカードの設定を更新した場合は、CONFIG SAVE コマンドを入力してください。
- ラインカードのチャンネルに対してリンクモードを設定した状態で、SYSTEM RESET CLUSTER コマンドに all パラメーターを指定して 1 回実行しても、当該のラインカードの外部コンフィグファイル (BM.cfg) は正しく消去されません。  
このとき、外部コンフィグファイル自体は消去されていませんが、設定はすべて初期化されています。  
外部コンフィグファイルを消去するためには、再度 SYSTEM RESET CLUSTER コマンドに all パラメーターを指定して実行する必要があります。

### 2.3 インターフェース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「インターフェース」

- ラインカードの送信レート上限値の設定が動作に反映されるまで、少し時間がかかる場合があります。

- スマートミッシングリンクモードに設定されたチャンネルのローカルポートの通信速度を 10M または 100M、デュプレックスモードを Half Duplex に設定した場合、リモートポートがリンクダウンすると、他の通信速度 / デュプレックスモードの場合と同様に、ローカルポートのリンク状態は維持したまま LINK LED が点滅します。この状態でローカルポートがリンクダウンした場合、本来はローカルポートの LINK LED は消灯し、CLI 上のリンク状態も Down となるのが正しい動作ですが、LINK LED の点滅が持続し、CLI 上のリンク状態も Up のままになります。デュプレックスモードを Half Duplex にする場合は、当該のチャンネルのリンクモードはミッシングリンクモードまたはリンクテストモードに設定してお使いください。
- SYSTEM SHOW MODULE コマンド、DIAGNOSTICS SHOW MODULE コマンドにおいて、モジュールの入力 / 出力電圧 (1.2V/1.8V/2.5V/3.3V/12.0V) が正しく表示されない場合があります。なお、上記の場合も、電圧状態 (Good または Failed) は正しく表示されます。
- 動作中、100Mbps SFP を一度でも装着したりリモートポートでは、送信側リンクに障害が発生したとき、当該のチャンネルがミッシングリンク / スマートミッシングリンクに設定されていても、正しく動作しなくなります。再びミッシングリンク / スマートミッシングリンクを動作させるためには、当該のラインカードのホットスワップを行うか、またはシャーシの電源を入れなおす必要があります。
- SYSTEM SET PORT コマンドで、設定する値を入力してなくても、エラーが表示されず、正常に処理されたようなメッセージが表示されることがあります。

---

## 2.4 ログメッセージ

### 「コマンドリファレンス」 / 「ログ」

- 電源モジュールまたはファンモジュールのファンが停止して、短時間で復旧した場合、ファンの障害ではなく、電圧の障害を表すログが表示されることがあります。
- 1000Mbps SFP を使用している際、SFP ポートの送信側リンク (TX) に障害が発生すると、リンクテストモードまたはミッシングリンクモード設定時でも、スマートミッシングリンクの発生時と同様、「RX SML」のログが表示されることがあります。
- 対向機器の通信速度が変更された場合、または、自機のオートネゴシエーションを無効の状態から有効にした場合、リンクダウンとリンクアップが行われますが、その際、リンクダウンのログではなく、「RX SML」のログが表示されることがあります。
- 3 秒ほどの短い時間で、ポートがリンクアップ / リンクダウンした際、スマートミッシングリンクの設定がされていない場合でも、本来の「Offline」のログが表示されずに、「RX SML」のログが表示されることがあります。
- ラインカードに内蔵されたボタン電池の残量低下のログが表示された状態でシャーシの電源が切れると、ボタン電池の残量回復のログが記録されますが、実際には電池残量は回復していません。

---

## 2.5 コンソールポートの通信速度変更

### 「コマンドリファレンス」 / 「ターミナルサービス」

SYSTEM SET ASYNCHRONOUS コマンドで通信速度を変更した場合、ログインセッションが終了してしまうことがあります。コンソールターミナル側の設定を変更したのち、再度ログインしてください。

### 3 マニュアルの補足

最新マニュアル（取扱説明書、コマンドリファレンス）や旧版リリースノートの補足事項です。

#### 3.1 AT-GS2002/SP との接続時のリンクモードについて

本製品と AT-GS2002/SP をリモートポートで接続する場合は、本製品と AT-GS2002/SP のリモートポートのリンクモードをスマートミッシングリンクモードまたはリンクテストモードに設定してください。

対応するリンクモードは、以下のとおりとなります。

リンクモード	対向機器		
	AT-MCF2000	AT-GS2002/SP	その他
ミッシングリンクモード	○	—	—
スマートミッシングリンクモード	○	○	—
リンクテストモード	○	○	○

### 4 未サポート機能（コマンド）

最新のコマンドリファレンスに記載されていない機能、コマンドはサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。最新マニュアルの入手先については、次節「最新マニュアルについて」をご覧ください。

### 5 最新マニュアルについて

最新の取扱説明書「AT-MCF2000 取扱説明書」（613-001710 Rev.B）、コマンドリファレンス「AT-MCF2000 コマンドリファレンス」（613-001739 Rev.A）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、これらの最新マニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>